

●第2段階:抄録提出と発表指導

1.抄録提出日 令和4年12月28日必着

2.抄録提出時の必要事項

- ・抄録提出は、E-mailのみでの受付となります。
- ・件名は、『第3回南支部新人症例発表会 抄録提出』と記載してください。
- ・抄録は、添付ファイルにてお送り下さい。
- ・下記の3.発表・抄録規定および著作権コンプライアンス、4.発表指導・リフレクションの観点と具体的な要点を必ずお読みください。

【抄録提出先】

南支部新人症例発表会 学術局 ベルピアノ病院 岡 大史まで E-mail:rpt.oka.biz@gmail.com

3.発表・抄録規定および著作権コンプライアンス

①発表規定

- 1)Microsoft PowerPoint を使用し、口述にて発表する。
- 2)抄録やスライドは、事前に必ず体裁、語句や文章の表現、内容などを可能な限り、所属施設内で指導を受けて提出する。
- 3)スライドの構成、様式は日本理学療法士協会の「症例検討会 発表にあたって」マニュアルを参照する。実行委員会より、多少変更されることもある。
- 4)動画の挿入は、不具合等でプレゼンテーションが円滑に行えなくなる可能性があるため、静止画のみを活用する。
- 5)原則、発表時間は7分、質疑応答は3分とするが、実行委員会の決定により、多少前後することがある。

②抄録規定

- 1)抄録はMicrosoft Windows OS上でMicrosoft Word(2007以降)を利用して作成する。
- 2)ファイル名は演者名(姓名、漢字)+拡張子(例:○○.docx)で保存する。『97-2003 文書』という旧式のWordバージョンでは保存しないこと(例:○○.doc)。
- 3)抄録の見出しは【背景と目的】【症例と介入】【経過及び結果】【結論】とする。見出しの文言や括弧は変更しないこと。
- 4)抄録の本文の文字数は1200字以内とする。見出しの文字はカウントしない。
- 5)文章のフォントはMS明朝体、サイズは10ポイントとすること。英数字は半角、カタカナは全角とする。句読点は句点(。)、読点(、)を使用すること。
- 6)文章は2段組みとし、余白は上下25.4mm左右19.05mmにする。文字数は24字、字送り9.6pt、行数は48行、行送り14.5pt、行間は1とする。必ず1段に収まるようにすること。
- 7)レイアウトは、一番上の行に演題名、2行目に氏名(発表者は筆頭演者、共同演者)を記載する。苗字と名前の間は半角スペース、演者間は全角スペースとする。3行目は施設名と所属部署を記載する(法人名は不要)。施設名と部署名の間は半角スペースとする。また、筆頭演者と共同演者の所属が異なる場合は氏名

の後と施設名の前に番号を記載すること。

【例】大阪 太郎¹⁾ 福島 花子²⁾
1)○○病院 ○○科 2) △△病院 △△科

8)図表や写真、引用文献は抄録には使用しない。

9)症例発表がヘルシンキ宣言、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に沿ったものであることを確認し、特に、プライバシーの侵害や人体に影響を与える発表に関しては、対象者に説明と同意を得たことを明記する。また、演者の所属する機関の倫理委員会で承認された発表である場合はその旨を記載する。

【例】対象者には文書にて説明し、同意を得た。

11)対象者の不利益となる情報や個人を特定できる情報は記載しない。

【例】氏名、イニシャル、カルテ番号、年齢、日付、住所、所在地、家系、他施設名など

12)英略語は初出時にフルスペルを記載する。

13)数量の単位は国際単位系(SI 単位)を使用する。

【例】長さ m、質量 g、時間 s、温度°C など

14)特定の研究会のみで使用される専門用語の使用は注意する。専門用語を使用する場合は読者および聴講者にも理解できるよう説明すること。

③著作権コンプライアンスへの留意

著作権は、特許権、商標権のように、特許庁などに出願して審査を受けて登録する必要がない。また著作権者は、著作物を創作した時点で自動的に権利が発生する。著作権コンプライアンスは、1 抄録・発表スライドを作成する側、2 その発表を聴講する側、3 新人症例検討会を開催する側のそれぞれが、著作権の知識を理解し権利を尊重するように行動する必要がある。

1)作成者が必要な行動

<日本ロボット学会ホームページ>

<https://www.rsj.or.jp/info/compliance/copyright/3.html>

著作物の利用にあたり基本的にはやってはいけないことがまとめられています。

1. 「引用」・「転載」手続き無しの著作物の利用
2. 不適切な引用
3. 他に著作権のある著作物の無断利用
4. 編集著作物の無断利用
5. 著作権を譲渡した原著物の無断利用

<情報処理学会ホームページ>

<https://www.ipsj.or.jp/faq/chosakuken-faq.html>

具体的な内容が Q&A 形式で記載されています。

<日本航空インプラント学会ホームページ>

http://jsoi2020.com/enja_zacho.html

学会主催者側から演者へ、オンデマンド配信による Web 開催の注意点が具体的に記載されています。
『通常の参集型の学術大会とは違い、発表内容が一定期間 Web 上にアップされる為、著作権や肖像権を理解した上で発表スライドを作成する必要がある』

2)聴講する側が必要な行動

会場内での写真や動画の撮影を一切控える。

3)開催する側が必要な行動

抄録、スライド作成時の注意喚起を演題提出、スライド提出の前におこなう。

開催当日は複数から注意喚起を促す(休憩時間にスライド映写、場内アナウンス、ブラカード等)

4.発表指導・リフレクションの観点と具体的な要点

①担当者

1)発表指導は、所属施設内の登録理学療法士(不在時は研修理学療法教育部担当者)が行う。

2)発表後のリフレクションは、発表セッションの座長(または実行委員会)が行う。

②発表指導の目的は『発表を通して、理学療法学としての科学的思考の育成を図る』ことにあるが、その指導は教育的(育成的)な観点から実施する。

③抄録指導・発表指導の具体的な要点は以下の通りである。

1)演題名

・発表内容を十分に表現しているか。

2)背景と目的

・目的や臨床的意義が明確で、倫理的配慮がなされているか。

3)症例と介入、経過および結果

- ・評価・治療の内容が、適切に記載されているか。
- ・データや図表、観察内容や評価項目が関連したものであるか。
- ・専門用語の表記や引用文献などが妥当なものであるか。

4)結論

- ・背景から考察まで一貫性があり、論理的飛躍がないか。
- ・発表者自身の考えや見解が記載されており、伝えたい事が伝わる内容であるか。

④リフレクションの具体的な要点は以下の通りである。

1)発表指導の要点(前項)の振り返り

2)質疑応答の対応と深化(他者の考えに触れ、さらに知見を拓げる)

3)発表者(症例)への今後の示唆となる機会

【ご不明な点についての問い合わせ先】

南支部新人症例発表会 事務局 関戸 英子 E-mail: pt.izumishi@gmail.com